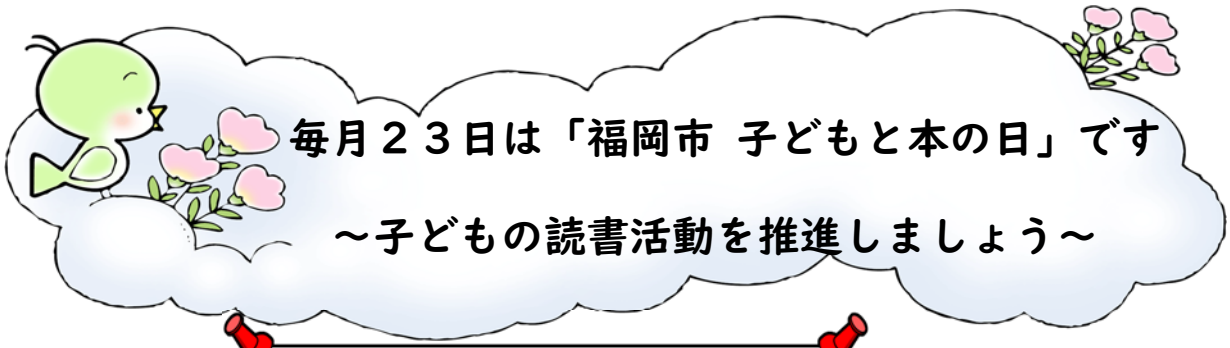
☺「福岡市　子どもと本の日」通信　Ｎｏ．１８６　　令和２年９月２３日



読書週間が始まります

第７４回読書週間は，１０月２７日（火）から１１月９日（月）で，今年の標語は，「ラストページまで駆け抜けて」です。

読書週間は，終戦まもない昭和２２年「読書の力によって，平和な文化国家を作ろう」という決意のもと，出版社・書店，公共図書館や新聞・放送のマスコミ機関も加わって，第１回読書週間が開催されました。そのときの反響はすばらしく，当初の期間は１１月１７日から１１月２３日までの１週間でしたが，翌年の第２回からは期間も文化の日を中心とした２週間と定められ，この運動は全国に広がっていきました。そして，「読書週間」は日本の国民的行事として定着し，日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

今，電子メディアの発達によって，世界の情報伝達の流れは，大きく変容しようとしています。しかし，その使い手が人間であるかぎり，その本体の人間性を育て，かたちづくるのに「本」は重要な役割を果たすことはかわりありません。　（読書推進運動協議会 HP より）

福岡市では，平成２９年２月に「福岡市子ども読書活動推進計画（第３次）」を策定し，家庭・地域・学校・図書館を中心に，関係機関や団体と連携しながら，創意ある取組みを推進しています。教育委員会では，読書推進活動の一つとして新入生に先生方から推薦された図書を※「新１年生へのおすすめ本リスト」にして配布しています。
今年度，小中学校に配布した「新１年生へのおすすめ本リスト」に記載した本を紹介しますので，読書週間に図書館などに展示されてみてはいかがでしょうか。

※「新１年生へのおすすめ本リスト」

教育委員会では，小学校や中学校の先生方から推薦された図書を紹介することで，新入生たちが学校での学習に興味を持ち，読書する本の幅を広げ，学ぶ力の向上と豊かな心の育成に資することを目的に，毎年，小学校，中学校に「新１年生へのおすすめ本リスト」を配布しています。このおすすめ本リストを作成するために，小学校，中学校の各教科の研究委員会や研究会に本を推薦していただいています。小・中学校に配布した「新１年生へのおすすめ本リスト」は，教育委員会ホームページ（生涯学習→子どもの読者活動の推進→おすすめ絵本・本の紹介）に掲載しています。

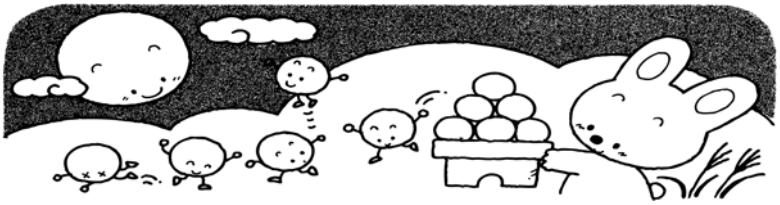
令和２年度の新入生の本の推薦

（小学校）

教科		書名	著作者	出版社
国語		はらぺこ　あおむし	エリック・カール	偕成社
算数		王さまライオンのケーキ： はんぶんのはんぶん　ばいのばいのおはなし	マシュー・マケリゴット	徳間書店
音楽		くまの楽器店	安房　直子	小学館
図画工作		じぶんだけのいろ	レオ・レオニ	好学社
家庭		おいしいおと	三宮　麻由子	福音館書店
体育		パンダなりきりたいそう	いりやまさとし	講談社
生活	社会	おしごと　おしごと　なににする？	なとり　ちづ	福音館書店
	理科	ふゆめ　がっしょうだん	冨成　忠夫	福音館書店

（中学校）

国語	そして、バトンは渡された	瀬尾　まいこ	文藝春秋
社会	こども六法	山崎　聡一郎	弘文堂
数学	小説アルキメデスの大戦	佐野　晶	講談社
理科	わけあって絶滅しました。	丸山　貴史	ダイヤモンド社
音楽	蜜蜂と遠雷	恩田　陸	幻冬舎
美術	ぼくは「つばめ」のデザイナー	水戸岡　鋭治	講談社
保健体育	スポーツと君たち：１０代のためのスポーツ教養	佐藤　善人	大修館書店
技術	失敗図鑑：すごい人ほどダメだった！	大野　正人	文響社
家庭	楽しくお手伝い	松本　麻希	旺文社
英語	ふたりはともだち Frog and Toad Are Friends	アーノルド・ローベル	ハーパーコリンズ社



本の帯を使った９月の展示・掲示

トンボの羽，花びら等々，帯で作るとピンと張りが出て，すてきです！

マスクを外した瞬間に感じる風や，気持ちよく飛んでいるトンボの姿に小さな秋を感じます。今月は，そんな秋の風を図書館に…ということで，風に揺れる掲示物を本の帯で作ってみました。

赤い帯と“つまようじ”で赤とんぼを作りました。羽は両面テープで貼っています。

帯を長さ 10 cm～15 cm，幅５ｍｍくらいに細長く切ります。そのはしをのりでつけ，輪を作り，張り合わせていきます。花の芯はティッシュを丸めて中央に両面テープで貼ります。葉も帯で作ります。ひもに付けると風にゆれて涼しそうです。

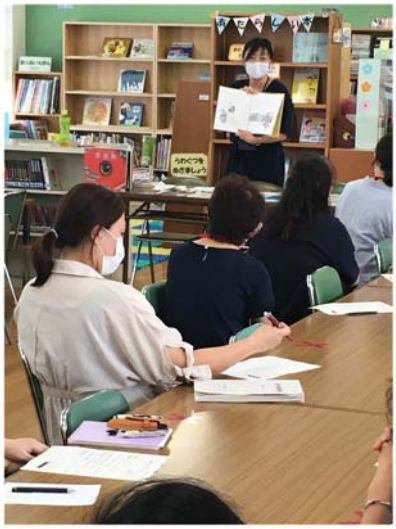
段ボールのゴミ箱に帯を貼ってカラフルにしてみました！

Ｈｅｌｌｏ！ 学校図書館

今月は南区の南部に位置する弥永西小学校で行われた　「ブックトーク」研修と，図書館の工夫を紹介します。

弥永西小学校は，児童数４４７人，１７学級の学校です。８月末の猛暑の中の訪問でしたが，校長先生を始め先生方の爽やかな笑顔に迎えられ，図書室まで案内していただきました。

研修の初めに校長先生から「本がきらいな子どもがいるだろうか，本との出会い，本の与え方で，子どもたちの本に対する思いは変わる・・・」というお話があり，今回の研修が出席者全員にとって大変意義深いものとなりました。



「ブックトーク」工夫のポイントは３つ

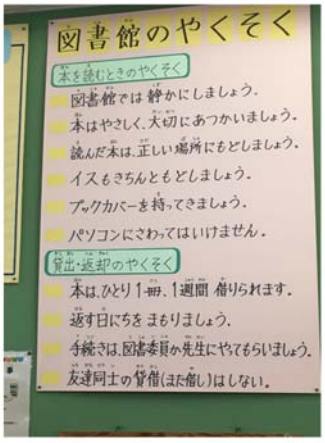
1．テーマ（低中学年はできるだけ具体的なもの）
2．キーワード（本と本をつなぐもの）
3．本のジャンル（できるだけさまざまな種類の本を）

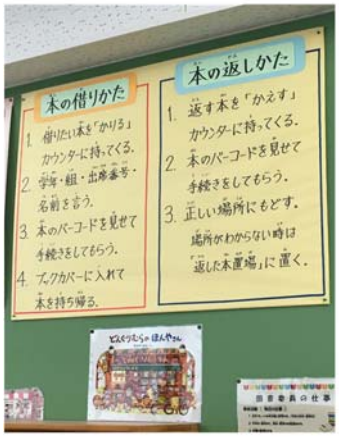
ブックトークとは「一つのテーマにそって，数冊の本を順序よく，上手に紹介すること」ですが，単なる本の紹介ではありません。ブックトークの目的はブックトークのあと，子どもたちが実際に本を読むことにあります。その場を楽しくするとか，面白い話を聞くということでなく，紹介した本を読んでもらうそのために本の話をするのがブックトークです。子どもたちが本を実際に手に取って，さらに自分で読むという目的は簡単には達成できません…　（読書相談員重村さんの話より）

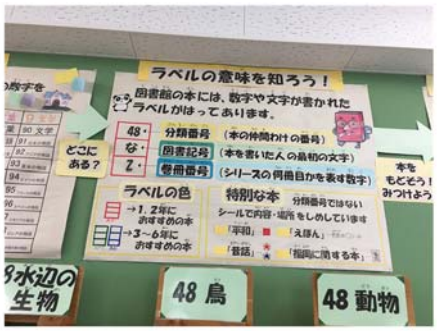
ブックトーク実演の後，たくさんの先生方が研修で紹介した本の周りに集まって来られました。また，「ブックトーク」実践に向けての質問もたくさん出ました。

子どもたちへの「ブックトーク」が楽しみです！

○貸し出しの仕方が分かるさまざまな工夫







図書館のやくそく，地図など，子どもたちが図書館を利用しやすい工夫が分かりやすく掲示されています。

○　あたたかい配架の工夫

すっきりとした配架，そしてあたたかいコーナーと，子どもたちが読書に親しみやすい環境づくりがされています。図書館の環境は，子どもたちの読書活動の推進を図る重要な要素です。

１０月生まれの文学者

今西　祐行(いまにし　すけゆき)と「肥後(ひご)の石工(いしく)」

大阪府中河内郡（現東大阪市）１９２３年１０月２８日　生まれ　２００４年　没

今西氏は大学を卒業後，１９５６年童話集「そらのひつじかい」で児童文学者協会児童文学新人賞を受賞し，文筆活動に入りました。

「肥後の石工」は，つらい過去と戦いながらも命をかけて弟子たちを育て，石橋づくりをした名職人の物語です。日本で最初の本格的な少年少女向け歴史小説として，児童文学史上新たな分野を開拓した作品という評価がされました。

今西氏は，作品を創り出すというより，作品の中で自分をもう一度生きてみようという意識がいつもあると言っています。作品には，原爆投下翌日の広島に救援隊として行ったことをもとに書いた「あるハンノキの話」「ヒロシマのうた」の他，「とうげのおおかみ」など作品は多数あり，「一つの花」「太郎こおろぎ」「はまひるがおの小さな海」などは，国語の教科書に取り上げられています。

恩田　陸（おんだ　りく）と「夜のピクニック」

青森県青森市　１９６４年１０月２５日　生まれ

恩田氏は子どもの頃からいつか作家になりたいと思っていました。２６歳当時，自分と１歳しか違わない酒見賢一氏が「後宮小説」という傑作でデビューしたことに衝撃を受け，小説「六番目の小夜子」で作家デビューをしました。

第２６回吉川英治文学新人賞と本屋大賞を受賞した「夜のピクニック」の本の解説で，文芸評論家の池上冬樹氏は，「『夜のピクニック』は，まさに現代の名作であり，同時に，永遠の青春小説ともいえるだろう。」と，述べています。

恩田氏の作品は，尊敬する作家や作品に影響された作品が多いのですが，ホラーからミステリー、コメディまで、まったく異なる作品を発表しています。「蜜蜂と遠雷」（直木賞，本屋大賞のダブル受賞)、「中庭の出来事」（山本周五郎賞受賞）「光の帝国」など多数あります。

【あとがき】

例年この時期は残暑が厳しいところですが，朝晩の涼しさに急に秋がやってきたようです。秋は一年の中で，一番読書に親しむことができる季節です。本年度はコロナ禍の中での秋の読書活動を充実させていただくことになりますが，どうぞ子どもたちが読書の楽しさを感じることができるような活動に取り組まれてみてください。今回紹介しました，弥永西小学校の先生方によるブックトークも子どもたちの読書活動推進の一つです。子どもたちがワクワクしながらブックトークを聞いている姿が目に浮かぶようです。

「学校図書館支援センター」では，さまざまな活動の紹介や支援も行っています。電話やメール等で遠慮なくおたずねください。また，併せて学校訪問も行っています。学校司書の先生方と共に，子どもたちの読書活動の推進を図っていきたいと思っています。

図書館員のひみつの本棚　第 173 回

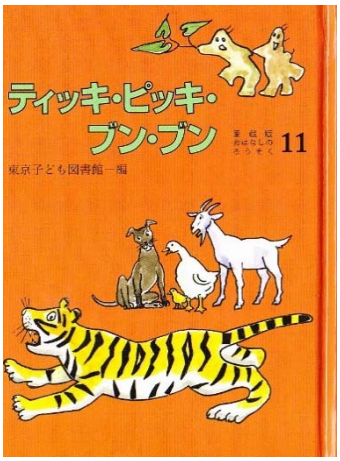
東京子ども図書館が刊行しているお話集「おはなしのろうそく」の愛蔵版に新刊がでました。

『ティッピ・ピッキ・ブン・ブン』 愛蔵版おはなしのろうそく 11
東京子ども図書館／編　大社 玲子／絵　東京子ども図書館　2020年　￥1600（税別）
＜お勧め年齢＞
乳幼児★★★　小低学年★★★　小中学年★★★　小高学年★★★　中学生★☆☆
高校★☆☆　一般★★★
（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

＜本の紹介＞
「おはなしのろうそく」は東京子ども図書館が 1973 年以来刊行しているお話集です。この愛蔵版は、そのお話集を子どもが自分で読めるように、活字を大きくし、振り仮名をつけ、挿絵を多くし、ハードカバーにしたものです。愛蔵版 1 冊に「おはなしのろうそく」2 冊分が収録されています。
今回は愛蔵版の 11 巻目となり、表題となっているジャマイカの昔話「ティッピ・ピッキ・ブン・ブン」のほか、イギリスのちょっと怖い昔話「金の腕」、日本の昔話で絵本にもなっている「まのいいりょうし」など、8つの昔話と手遊びが一つ収録されています。

＜子どもに手渡す時のポイント＞
子どもが自分で読んでも楽しめますが、昔話は耳で聞くとより楽しめるお話です。子どもがこの本の中に面白い話を見つけて「ねぇ、これ読んで！」と言ってきた時には、ぜひすぐに声に出して読んであげてください。また、大人からも「これ読もうか？」と声をかけてもらいたいと思います。
今回は読んでもらっても楽しめる年齢から、読んであげて楽しめる年齢まで★をつけています。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発　行：　福岡市教育委員会　総合図書館　図書サービス課
電　話：　０９２－８５２－０６３９
ＦＡＸ：　０９２－８５２－０８０１